

# 自分の生き方

落とし物が持ち主に返ってくる日本。電車やバスが時刻表通りにくる日本。乗り物に乗ろうとしていている人が整然と列を作って待つ日本。公共施設にゴミが落ちていない日本。皆さんはこのような日本（人）をどう思いますか。

日本人大リーガー、ロサンゼルス・エンゼルス所属の大谷翔平選手（写真）が、グラウンドに落ちていたゴミを拾ったことが話題になりました。彼の影響で、本拠地のエンゼル・スタジアムでは、観客がゴミを拾う光景もあちらこちらで見られるとか。外国（人）にはないよさが、日本（人）にはあると改めて気づきます。



カバンを背負ったジャージ姿で店舗に入り、飲み物を購入していた北中生の姿を見た地域の方が、心配して情報提供してくださいました。目くじら立てて叱るようなことではありませんが、私はこのことについて次のように考えています。

この生徒には、「わからなければいいだろう」「これくらいならいいだろう」という思いが生まれたのかもしれませんが。人間である以上、そういう思いはだれもが抱くものです。

私にも、過去に裸の札を拾った経験があります。その時に、先に述べたような思いが瞬間的に私の心の中に生まれました。最終的には拾得物として届け出ましたが、思いとして生まれたのは事実です。それが一気に私の心の中に広がっていたら、「魔が差す」ということになっていたかもしれません。

人はいつも自分の弱さと闘っています。その闘いを積み重ねながら、「自分の生き方」を確立していくのだと私は思います。学校帰りの飲食物の購入が平気でできてしまうようだったら、それまでの闘いにも負けを積み重ねてきた当然の結果だと言えます。迷いがあつた上での購入だったら、まだまだ「自分の生き方」が確立できていない段階だと言えます。

今回のことで生徒の皆さんに考えてほしいのは、「自分の生き方」としてこだわって行動できるかどうか、ということ。人に見られているかどうかではなく、「自分の生き方」を貫けるかどうかです。中学時代は、それを確立するために試行錯誤する時期であつて、大いに悩むべきです。見られていればやらないという薄っぺらな判断をしていては、「自分の生き方」は到底確立できません。

最初に述べたような素敵な日本の姿があるのは、日本人の中には「自分の生き方」が確立できている人が多くからだ。私は考えています。その一人が大谷選手です。若干二十七歳で「自分の生き方」が確立できている彼だからこそ、世界で通用する選手になれたし、「世界で最も影響力のある100人」にも選ばれたのでしよう。大切なのは生き方ですね。

（十月八日記）